

2024年7月29日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。なお、今回の調査結果を以前の結果と比較する際は、今回の調査結果を「2024年8月」の結果としています。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

湾内の表層（深度5m層）の水温は19～22℃台で、概ね昨年並でした。胆振側の湾外から湾口部にかけての水温は全層で前年を上回り、平年より2～4℃程度高くなっていました（St.05, 19）。また、水深10～40mの水温は渡島側の湾口部（St.22）で平年と比べ低くなっていました。

水温 (℃)

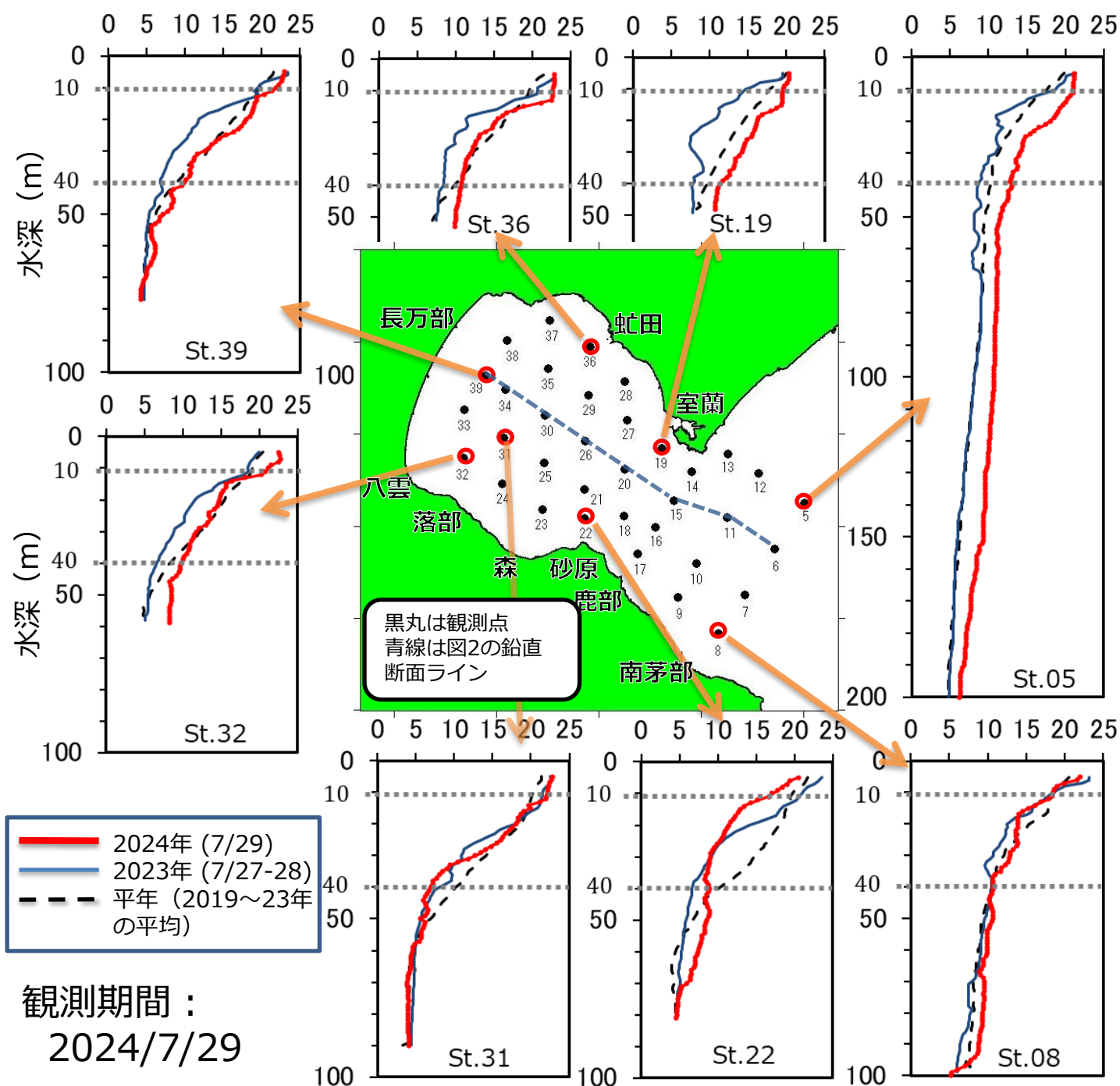


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水温、塩分、溶存酸素の鉛直断面分布】

- ・8月の湾内の深度10m以浅の水温は18～22℃で、湾内の水深70m以深は8℃以下となっていました（図2左）。
- ・津軽暖流および黒潮続流の影響を受けたとみられる水（水温6℃以上、塩分33.6以上）が湾内に流入しています（図2中）。流入の度合いは昨年同時期よりも進んでいます。
- ・湾内の底層付近には7月に引き続き貧酸素水（3ml/L以下）が分布しています（図2右）。

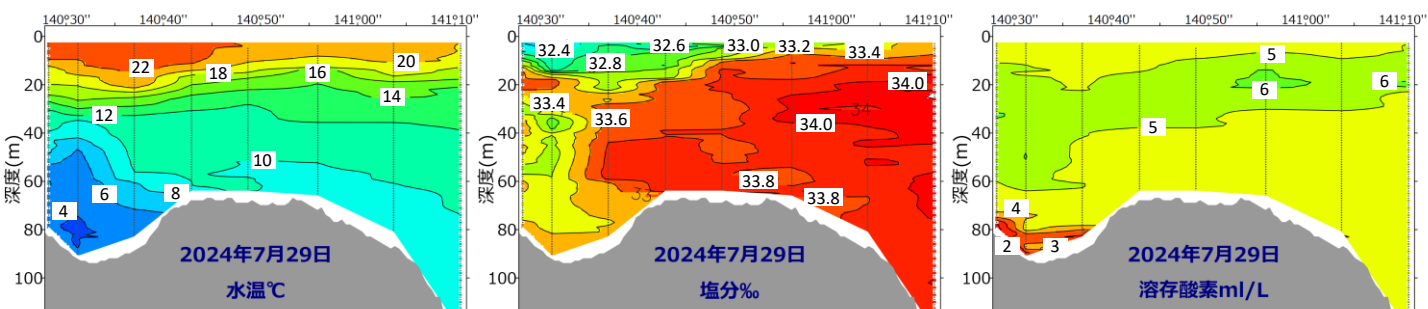


図2 水温・塩分・溶存酸素の鉛直断面図（左：水温，中：塩分，右：溶存酸素）
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照 図中破線は観測点

【水深30mにおける水温、塩分の水平分布】

- ・湾内の深度30mにおける水温は8～13℃台で、湾奥や胆振側の湾口で高く、渡島側の湾口付近で低くなっていました。また、湾外の胆振側の水温は湾内よりも高く、15℃台となっていました。（図3左）
- ・湾内の深度30mにおける塩分は32.9～33.8で、胆振側湾口および湾外で高く、渡島側湾口付近で低い傾向がありました。また、湾外の胆振側では34.4を超える高い塩分値が観測されました（図3右）。暖流水は湾外から胆振側に流入しているとみられます。

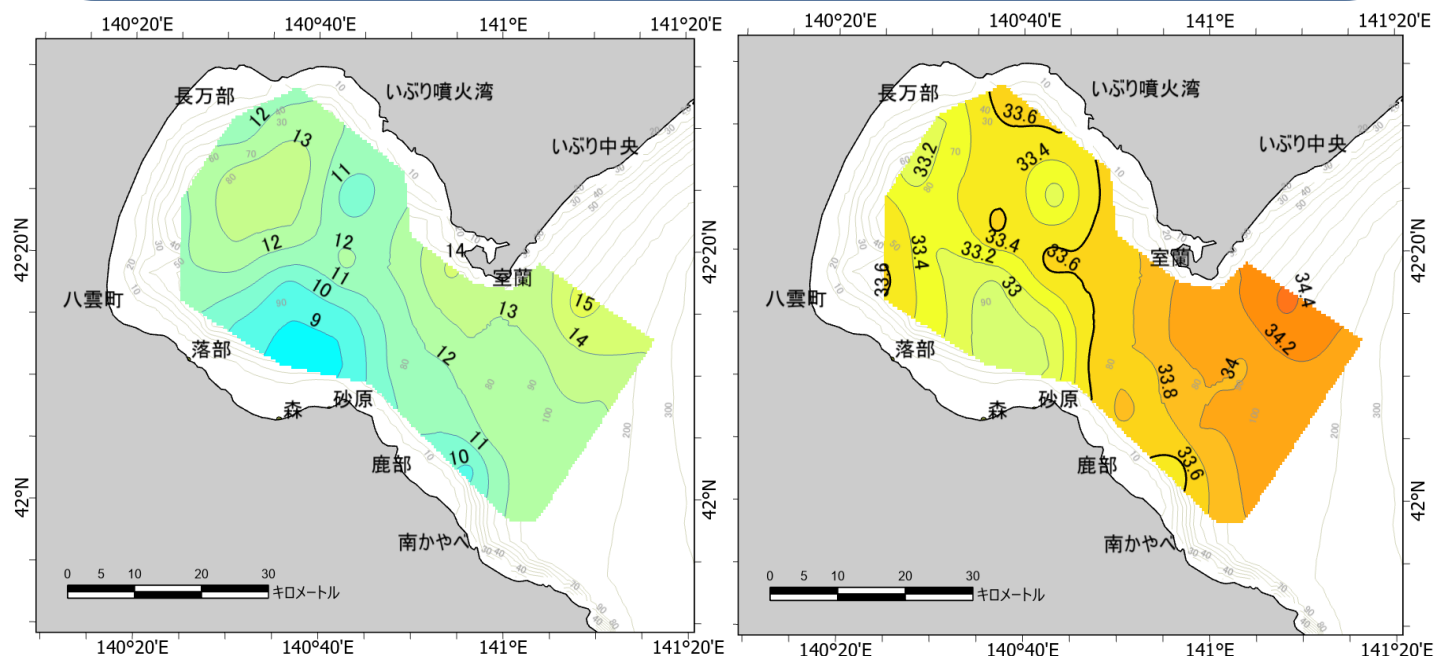


図3 水深30mにおける水温・塩分の水平分布図（左：水温，右：塩分）